



県政に勇気！ 南魚沼に元気！

ひぐち
秀 敏

元氣通信

2022/11 第13号

発行責任者：柴田恵美子
南魚沼市塩沢1412-2 阿部アバ
ひぐち秀敏後援会事務所
電話：FAX：025-782-5233

ひぐち後援会が総会

これからも力合わせて

県議選 柏崎刈羽原発再稼働が争点

ひぐち秀敏後援会は、これを確認しました。

9月27日は後援会総会を開き、市民と野党が今後も力を合わせて、ひぐち県議を支えること

100人を超える人が
集いました。
米山隆一衆議院議員、
県立病院をはじめとし
た公立・公的病院の役
割が重要と考えて維持

梅谷守衆議院議員、打越さくら参議院議員も激励に駆け付けました。を求めてきたこと、検証総括委員会、技術委員会、避難委員会を可

米山議員は一県議選で能な限り傍聴して県のは柏崎刈羽原発の再稼原子力防災や原発再稼動が争点となる一辺一動に付する考え方問ひ

「償が等しくなる」として、原発に頼らない社会をめざすひぐち県議会を期待していると述べました。

口ナ化で苦しむ事業者支援と労働者の生活改善に向けた最低賃金引

ひぐち県議は「持続可能な地域医療提供体などが語られました。上げを求めてきた」と

制や脱原発社会、人を大切にする県政を求めてきた」と3年半の活動を報告しました。中魚沼地域で唯一の非自民の県議として、花角県政に向かい合ってい

山間地域など「くき地」の医療を守るために、く決意を改めて表明しました。

議会に送り出していくいただき3年半。地域のみなさんから要望や相談をいただきことが増えた。一部は本紙の「玄関先から」で伝えてきた■相談くださった方から「ありがとね」と感謝の言葉をいただくこともある。声をかけていただいたこちらこそ感謝しなければならない■河野太郎デジタル相は、2024年秋にもマイナンバーカードと一体化した「マイナ保険証」に切り替えると発表した。「任意なのに事実上義務化する政府のやり方は卑怯」など、批判の声が相次ぐ■背景には国民の声を聞かずに国葬を强行し、旧統一教会との関係もきちんと調査しない政府への不信感がある■県民の声に耳を傾け、真摯に向き合うことの大切さを痛感している。(ひ)

ひぐち秀敏決意表明



「にじいろ」を手に、これまでの活動報告とともに、自らの政策を語るひぐち県議

医療・福祉・教育

県は、国が進める地域医療構想に基づき、県立病院の再編、民営化の議論を進めてきました。財政難の原因の一つが県立病院の赤字だとして、県立加茂、吉田病院を公設民営にすることを決定しました。教員採

医療・福祉・教育

県は、国が進める地域医療構想に基づき、県立病院の再編、民営化の議論を進めてきました。財政難の原因の一つが県立病院の赤字だとして、県立加茂、吉田病院を公設民営にすることを決定しました。教員採

医療・福祉・教育

県は、国が進める地域医療構想に基づき、県立病院の再編、民営化の議論を進めてきました。財政難の原因の一つが県立病院の赤字だとして、県立加茂、吉田病院を公設民営にすることを決定しました。教員採

医療・福祉・教育

県は、国が進める地域医療構想に基づき、県立病院の再編、民営化の議論を進めてきました。財政難の原因の一つが県立病院の赤字だとして、県立加茂、吉田病院を公設民営にすることを決定しました。教員採

人を大切にする政治めざす

「コロナ禍で、あらためて公的医療の重要性が明らかになり、福祉や教育の現場の課題も浮き彫りとなりました。人々の生業（なりわい）を支える公助の必要が認識されました。ひぐち秀敏は、県民の命と暮らしを守る施策実現をめざした3年半の活動を報告し、今後の政策を語りました。

再編議論と合わせ、持続可能な地域医療提供体制をめざしていきます。

コロナ禍を受け、感染症に対応できるよう、保健師の増員を求め、一定の増員が実現しました。県民の健康が守られるよう、引き続き保健所の過重労働解消に取り組んでいきます。

地域経済・農業

桶口県議が初当選してから3年と6ヶ月が経ちました。これもひとえに皆様のおかげと、感謝申し上げます。ありがとうございます。

当選がスタート。後援会としてやるべきことが山積でした。しかし、世界中が新型コロナ感染症で身動き

後援会長
柴田恵美子

できない状況になり、収束を見ないまま時間だけが経つてしましました。

後援会が十分な活動をできない中、県議会において桶口県議は新人とは思えない発言で、県民の声を伝えました。議会がないときは地元の皆様の声を聞き

たいと、地域を回っています。

桶口県議は9月27日の総会で、自らの政策の実現に向けて取り組む決意を力強く語りました。私も、このまま後援会長を降りる訳にはいかないと思い、引き続き桶口県議を応援することにいたしました。

後援会がさらに元気になるよう取り組んでいきます。

第4回 明日を開く連続講座
打越さくらの
暮らしと憲法カフェ



11月27日（日）
14:00～16:00
大巻開発センター

憲法が定める国民の権利について、話しあってみませんか。

原子力発電所を巡る動き

2011年	3月	東日本大震災発生 東京電力福島第一原発が 炉心溶融等重大事故
2012年	6月	原子炉等規制法改正 運転期間は原則40年に (最長20年延長可)
2017年	8月	米山知事が生活検証委員 会、避難委員会設置
2018年	1月	検証総括委員会設置
	5月	「再稼働の是非は、県民 に信を問う」とした花角 氏が知事に当選
2021年	2月	柏崎刈羽原発で I D カー ドの不正使用が発覚
	3月	核物質防護設備の一部で 機能喪失が発覚
	4月	原子力規制委員会が、柏 崎刈羽原発の運転禁止を 命令
2022年	8月	岸田首相 柏崎刈羽6、7号機含む7 基を再稼働の方針 60年の運転制限廃止、新 増設の検討を表明
	10月	原子力規制委員長 運転期間削除を容認

岸田首相は8月のG7実行会議で、柏崎刈羽原発6、7号機を含めざすとともに、新增む7基の原発について来年夏以降の再稼働を

設を検討するよう指示しました。昨年10月に閣議決定したエネルギー委員会の山中委員長も、原発の運転期間を原則ります。原子力規制委員会の山中委員長も、原発の運転期間を原則

東京電力福島第一原発の過酷事故を受けて、原子炉等規制法を改正

おり、国民的議論もな
いまま再稼働や新增設
を認めるることはできま

政原子力策福島の教訓生かせ

る声が聞かれます。由
山間地域に適した農業
政策を求めていきます。
農家を指導する普及指
導員に欠員があり、補
充を求めてきました。
すべての労働者の售
金改善に向け、最低售
金の引上げと中小企業
支援を求める意見書を、

A wide-angle photograph of a large indoor event. The room is filled with rows of people seated at white tables. In the center, a man in a suit stands at a podium, speaking into a microphone. Behind him, a large screen displays the text "ひぐち秀敏後援会 総会" (Higuchi Shoumin Supporter's General Assembly). On either side of the speaker, there are large portraits of a man with glasses. The room has pink curtains and a high ceiling.

後援会員らで満席となった総会

6、7号機を含む7基の原発を来年夏以降に再稼働する考えを示しています。原子力発電所に頼らない社会の実現に向けて、原発立地県である新潟県の姿勢をただしてきました。

稼働の議論は始めることはできない」としてあります。しかし、6月定例会の一般質問では、検証委員会で出された課題が整理されなくて、検証結果が出され、その後は再稼働の議論を

原発に頼らない社会へ

県議会の情報公開は不十分で、多數会派に有利な運営が行われています。これまで、県議会の見える化社会の実現に向けて取り組みます。

数とするよう求めてきました。常任委員会の録画中継実施も必要と考えています。県民に見える県議会をめざしていきます。

今後も「にじいろ」や「元気通信」を発行

実現に向けて、園芸生会派で6月定例会に提出し、全会一致で採択されましたが、南魚沼など積雪されました。

平和・脱原発

花角知事は再選後も
「三つの検証結果が示
されない限り、原発再

始めるなど答えて います。
県民の安全安心を第
一に、原発に頼らない

「にいがた県議会だより」における代表質問の掲載数を各党会派同

し、定めのなかつた原発の運転期間を原則40年、原子力規制委員会の基準を適合した場合に限り、最長20年まで延長できるとした経過を忘れたのでしょうか。

今年2月時点でも3万3千人を超える人が避難生活を余儀なくさ

宮城県、島根県では再稼働を求める請願を県議会が採択し、知事が再稼働に同意しました。来年4月の県議選の結果が再稼働判断に大きく影響します。福島事故の教訓を生かさなければなりません。



後援会員らで満席となった総会

議会の見える化

社会の実現に向けて取り組みます。

議会の見える化

県議会の情報公開は不十分で、多数会派に有利な運営が行われています。これまで、社会へ

数とするよう求めてきました。常任委員会の録画中継実施も必要と考えています。県民に見える県議会をめざしていきます。

今後も「にじいろ」や「元気通信」を発行し、県議会での質疑や日頃の活動の様子を伝えていきます。

ひぐち県議は、玄関先や街角でみなさんの困りごとや、ご要望などを聞かせていただいています。即答でできないこともありますが、市議会議員や行政の力を借りしながら、課

題の解決に向けて奮闘しています。ときには難しい課題に直面し、悩むこともあるようです。ひぐち県議の日常活動の一コマを、エピソードも交えながらお伝えします。



南魚沼市で宿泊施設を経営する方から予算の配分方法の見直しを求める声が寄せられました。県は予算の配分を、昨年6月から実施してきた「にいがた県民割キャンペーン」の実績に基づいて行いました。しかし、湯沢町や南魚沼市へは関東方面からの客

政府の観光促進事業「全国旅行支援」が10月11日に始まり、新潟県も「にいがた旅割キヤンペーン」をスタートさせました。キャンペーンを利用して旅に出かける方も多いことでしょう。

「旅割」見直し求める

は事業者への配分方法の見直しも含めて検討したいとしています。旅行者、事業者双方にメリットがあり、国内経済の回復で国民全体に還元される制度となるよう、引き続き求めていきます。

が多く、県内客は少ないため、県民割の実績では配分が少くなりますが。せっかく割引対象が全国に拡大されるのに、そのメリットを生かせないというのです。県に対し、予算の配分方法見直しと12月1日以降の事業運

「文章も
どうだが、割付もある
たがして、いるのか」
「はい」。まだ、おじ
おじいじさん。
「よべやねいさん」。

「議員になる前の創刊号から数えて12号で、新聞折込を始めたのは9号からです」。
「2ページの2つ目の見出しの前の文章が、

は誰？ 違いを指摘されると落ちつきましたが、よく読んでくださる方がいることに感謝です。読んでくださる方に思いを寄せ、よりよい紙面づくりに励みます。

「車庫にマイマイが
が来て困っています。
うちの前の街灯だけ
E Dじゃないので」と
相談いたしました。
はじめは何の話か理解
できず調べ
てみました。
マイマイ
ガなど夜行性の虫は紫
外線を見ることができ
るため、電灯から出る
紫外線に集まります。
しかし LEDは紫外線
をほとんど出さない

(※) ため、虫が寄りつきにくいのです。

相談いただいた方の家の周りの街灯はLEDに交換されていましたが、相談のあつた街灯だけ管理者が異なり、LEDに交換されていませんでした。なのでマイマイガが車庫の中にも卵を産みつけ、困つていたのです。

イガはLED嫌い

街灯を管理している県地域振興局地域整備部に相談に伺つたところ、電球が切れたところなどから交換しているので、すぐには交換できないとのことでした。

2か月余りが過ぎ、交換工事を行うとの連絡に感謝。これでマイマイガも寄りつかなくなるでしょう。

※一部に紫外線を発生するLEDもあります。

マ イ
て み ま し た
で き ず 調 べ
は じ め は 何 の 話 か 理 解
相 談 い た だ き ま し た。
E D じ ゃ な い の で 「

マイマイガはLED嫌い

から交換していく
すぐには交換
できないとの
ことでした。